

天ヶ瀬ダム再開発計画に関する 調査検討の説明状況

平成16年7月18日
琵琶湖河川事務所

天ヶ瀬ダム再開発計画に関する調査検討の説明状況

項 目	これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所	説明状況報告書
1) 琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減のため、「水害に強い地域づくり協議会(仮称)」を設置し、土地利用誘導等の諸施策について、検討する。	-	-	-			
1)-1 琵琶湖沿岸の浸水被害について	-	-	-			
浸水被害の予測						p23:2.1.3(4)
瀬田川洗堰操作の影響				・宇治川、淀川洪水時に必要な洗堰全閉操作が琵琶湖水位に与える影響を明らかにすること	対話討論会	p31:2.1.4(2)
その他				琵琶湖の計画高水位が、計画降雨に対する水位を意味するのであれば、計画高水位までは被害を発生させないようにするべきであり、琵琶湖からの放流量を増大して計画降雨に対する水位を「琵琶湖沿岸で被害が発生し始める水位(被害発生水位)」まで下げようとするのであれば、被害発生水位を計画高水位とするべきである	意見書	
				基礎原案によれば、この事業の効果を琵琶湖の「ピーク水位の低下」と「浸水時間の低減」で表現しているが、後者の評価が不適切である。すなわち、後者の評価時間として、基礎原案では、制限水位を超えた時間から制限水位に戻るまでの時間を用いているが、制限水位を被害発生水位に置き換える必要がある	意見書	
				浸水被害の実態調査を行うこと	対話討論会	p6:2.1.1
				浸水被害がどのようなしくみで発生するのか明らかにすること	対話討論会	p17:2.1.3
1)-2 琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減策	-	-	-			
瀬田川～宇治川の流下能力増大	-	-	-			
-1 宇治川の流下能力増大	-	-	-			
宇治川塔の島地区河道掘削と景観				増大量は、瀬田川洗堰から塔の島に至る区間の流下能力(放流能力)を総合的に判断して決めるべきであるが、塔の島地区の流下能力が支配的になると考えられる。「塔の島地区の河道掘削」は、この地区の歴史的景観を保全するため、できるだけ少なくするべきであり、できるだけ避けるのが望ましい。	意見書	p49:3.1.2(1)
				瀬田川洗堰から宇治川塔の島地区までの区間の流下能力(放流能力)の増大量および増大方法については、洪水時の土砂流出、歴史、景観、環境、費用などを勘案した総合的判断をする。	意見書	
				「塔の島地区の河道掘削」は、この地区の歴史的景観を保全するため、できるだけ少なくするべきであり、できれば避けるのが望ましい。堤防補強などにより、河道を掘削せずに流下能力を増大する可能性についての検討が望まれる。流下能力の検討では、既往洪水時の流下状況を参考にする必要がある。	意見書	
				<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの工事について、その形状を治水、利水面より必要性を説明するとともに、環境面、景観面について現在の評価を実施すること ・浸水被害の実態想定とその影響について調査すること ・1500m³/sは、どのような経緯を経て、どのような根拠で決定されたのか明らかにすること ・1500m³/s河道にすることによる、環境・景観の問題点とその対策について調査検討すること ・掘削によらない流下能力増大方法を検討すること ・1500m³/s河道が整備された後の景観が分かるフォトモンタージュを作成すること ・現在の宇治川塔の島地区の1000～1500m³/sにおける100m³/s流量毎の水位及び周辺の浸水状況を示すこと ・掘削後の河道維持について調査すること 	対話討論会	

天ヶ瀬ダム再開発計画に関する調査検討の説明状況

項 目	これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所	説明状況報告書
宇治川の堤防の安全性と強化方法				<p>琵琶湖の後期放流に伴う長期の高水位による浸透破堤が懸念される区間の堤防補強は、主に浸透破堤を考慮した工法が適切であるが、超過洪水を視野に入れ、越水や洗堀にも対処できる工法を採用する必要がある。</p> <p>現地に適合した具体的補強方法を「淀川堤防強化検討委員会」で早急に検討することとなっているが、後期放流による浸透破堤が懸念される区間でも、超過洪水を視野に入れ、浸透だけでなく越水や洗堀にも対応できる工法を採用する必要がある。堤防補強の緩傾斜面は、水際と陸域との移行帯であることを念頭におき、その箇所にふさわしい植生の自然回復、生態系の回復をはかる必要がある。</p> <p>この際、下記の事項について配慮する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者の意見を聴くこと ・埋土種子を活用するなど、生態系に配慮した工法を採用すること ・将来のまちづくりを視野に入れること 	意見書	
				<ul style="list-style-type: none"> ・現状の安全性評価を行うこと ・堤防補強対策とスケジュールを示すこと 	対話討論会	
-2 天ヶ瀬ダムの放流能力増強【2】と重複	-	-	-			
-3 瀬田川(鹿跳渓谷含む)の流下能力増大				「瀬田川洗堰バイパス水路の活用」については、早期の実現が望まれる	意見書	
				「鹿跳渓谷の流下能力の増大」については環境と景観の両観点から検討するとされているが、歴史性も考慮すると開削は許されない。したがって、流下能力を増大させる方法としてバイパス・トンネル案が有力視されるが、環境影響評価を行うとともに、洪水時以外の鹿跳渓谷の流況が保全されるようにする必要がある。	意見書	
				<p>琵琶湖の後期放流に伴う長期の高水位による浸透破堤が懸念される区間の堤防補強は、主に浸透破堤を考慮した工法が適切であるが、超過洪水を視野に入れ、越水や洗堀にも対処できる工法を採用する必要がある。</p> <p>現地に適合した具体的補強方法を「淀川堤防強化検討委員会」で早急に検討することとなっているが、後期放流による浸透破堤が懸念される区間でも、超過洪水を視野に入れ、浸透だけでなく越水や洗堀にも対応できる工法を採用する必要がある。堤防補強の緩傾斜面は、水際と陸域との移行帯であることを念頭におき、その箇所にふさわしい植生の自然回復、生態系の回復をはかる必要がある。</p> <p>この際、下記の事項について配慮する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者の意見を聴くこと ・埋土種子を活用するなど、生態系に配慮した工法を採用すること ・将来のまちづくりを視野に入れること 	意見書	
				瀬田川洗堰から宇治川塔の島地区までの区間の流下能力(放流能力)の増大量および増大方法については、洪水時の土砂流出、歴史、景観、環境、費用などを勘案した総合的判断をする。	意見書	
				<p>瀬田川洗堰から鹿跳渓谷までの「河床掘削」については、すでに掘削された部分もあり、継続実施することは概ね適切である。</p> <p>「鹿跳渓谷の流下能力の増大」については環境と景観の両観点から検討するとされているが、歴史性も考慮すると開削は許されない。したがって、流下能力を増大させる方法としてバイパス・トンネル案が有力視されるが、環境影響評価を行うとともに、洪水時以外の鹿跳渓谷の流況が保全されるようにする必要がある。</p>	意見書	
-4 その他				瀬田川、宇治川の流下能力を向上することにより、琵琶湖の浸水被害はどのように軽減されるか、明らかにすること	対話討論会	p43:3.1.1(9)
				琵琶湖沿岸の浸水被害を軽減するには、後期放流の増大をはかるとともに、琵琶湖沿岸での流域対応ならびに河川対応の充実をはかる必要があるが、後期放流の増大量および増大方法については、代替案の検討を含め、さらに慎重な検討が必要である。	意見書	p35:3.1.1
ポンプによる内水対策				<ul style="list-style-type: none"> ・内水対策として外水位を下げることに加え、ポンプによる強制排水を検討すること ・内水対策として、外水位を下げる対策と、ポンプによる強制排除の対策と、どちらを優先させるか検討すること 	対話討論会	p45:3.1.1(10)

天ヶ瀬ダム再開発計画に関する調査検討の説明状況

項 目		これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所	説明状況報告書
	その他、琵琶湖流域での可能な対策	-	-	-			
	沿岸の土地利用の誘導、建築物の耐水化等				琵琶湖沿岸における浸水被害の軽減のためには、土地利用誘導のみならず、建物の移転・耐水化など多様な流域対応も実施する必要がある ・琵琶湖沿岸の浸水対策として琵琶湖流域で可能な対策について調査検討すること	意見書 対話討論会	p67:3.1.3(1)
	分水路案				琵琶湖から直接日本海に放流する放水路案について検討すること ・宇治川塔の島をバイパスする、琵琶湖、宇治川からの放水路案を検討すること	対話討論会	p41:3.1.1(7)(8)
	その他				琵琶湖の「事前放流」については早急に検討すべきである。	意見書	p36:3.1.1(1)
2) 天ヶ瀬ダム放流能力増大方策として既存施設を活用した放流方法の検討を行う。		-	-	-			
2)-1 既存施設を活用した放流能力増強案の検討		-	-	-			
	天ヶ瀬ダム本体				ダム本体に構造上の欠陥はないか示すこと ・ダム周辺の地質に問題はないか示すこと	対話討論会	p58:3.1.2(3)
	ダム建設時仮排水路						p59:3.1.2(3)
	天ヶ瀬発電所導水路						p61:3.1.2(3)
	旧志津川発電所導水路						p62:3.1.2(3)
	宇治発電所導水路						p63:3.1.2(3)
	琵琶湖第1・第2疏水						p64:3.1.2(3)
	その他				天ヶ瀬ダムの放流能力の増大方策として、既存施設を活用した方法を検討することは概ね適切であり、積極的な検討が必要である。 既存施設を活用することは、費用の軽減、新たな環境破壊の回避等の面から歓迎される。さらに次の事項について調査・検討する必要がある。 ・複数の既存施設を併用することの可能性と放流量を増大させるとどのような効果があるのか ・排砂機能を持つ放流設備の活用による放流能力の増大方法の検討	意見書	p54:3.1.2(3)
2)-2 新設の施設による放流能力補強案の検討							p64:3.1.2(3)
3) 放流方法の変更に伴う環境への影響についての調査・検討を行う。		-	-	-			
	3)-1 低周波振動の影響の検討				現状での低周波振動の状況を示すとともに、放流量増強に伴う被害発生の可能性について調査すること	対話討論会	
	3)-2 下流河川の環境への影響の検討	-	-	-			
	ダム下流現況河川環境現況調査				天ヶ瀬ダムの放流方法の変更あるいは貯水池運用の変更に伴う環境への影響について調査・検討することは重要であり、積極的に実施する必要がある。 環境調査の実施に際しては、学識経験者の指導と助言のもとに調査項目・調査方法などを定め、十分に調査する必要がある。調査結果については、公開が原則であり、結果の評価に際しては、学識経験者も加えて行う必要がある。	意見書	
	下流河川の生物の生息・生育環境への影響の検討				ナカエコガリコ等の底生動物の保全について調査検討すること	対話討論会	
4) 貯水池運用の変更に伴う環境等の諸調査を行う。		-	-	-			
4)-1 貯水池の水位変動幅の増による影響の検討		-	-	-			
	貯水池内現況河川環境現況調査				天ヶ瀬ダムの放流方法の変更あるいは貯水池運用の変更に伴う環境への影響について調査・検討することは重要であり、積極的に実施する必要がある。 環境調査の実施に際しては、学識経験者の指導と助言のもとに調査項目・調査方法などを定め、十分に調査する必要がある。調査結果については、公開が原則であり、結果の評価に際しては、学識経験者も加えて行う必要がある。	意見書	
	貯水池内の生物の生息・生育環境への影響の検討						
5) 天ヶ瀬ダム再開発を含む瀬田川の流下能力増強による、琵琶湖における生物の生息・生育環境を保全・再生するための琵琶湖の水位操作について、検討を行う。		-	-	-			
5)-1 瀬田川の流下能力増強の検討							

天ヶ瀬ダム再開発計画に関する調査検討の説明状況

項 目	これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所	説明状況報告書
5)-2 琵琶湖の水位操作の変更の検討	-	-	-			
治水機能への影響の検討						
生物の生息・生育環境への効果の検討				・琵琶湖における生物の生息・生育環境を保全・再生する観点から、流下能力増強による琵琶湖の水位操作の見直しを検討すること	対話討論会	
6) 土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う。	-	-	-			
6)-1 土砂移動の連続性が遮断されることによる影響の検討				山地から海岸までの土砂収支をはかることは重要な課題であり、ダム・堰・砂防ダムでの土砂の連続性を確保するばかりではなく、平常時の河道での土砂移動についての配慮が重要である。	意見書	
6)-2 土砂移動の遮断を緩和(解消)する方策の検討				増大方法については各種の方法を併用して環境に及ぼす影響が少ない方法を選択すべきであり、ダム堆砂の排出にも役立つ方法が望ましい。	意見書	
				・ダムの機能を維持し、下流の河川環境を保全・再生するため、堆積対策について検討すること ・掘削後の河道維持について調査すること	対話討論会	
7) 利水について、水需要の精査確認を行う。	-	-	-			
7)-1 各利水者の水需要の精査確認				・京都府営水道の各浄水場の水需要を精査し、府営水道全体としての評価すること。	対話討論会	
7)-2 水系全体での包括的整理(琵琶湖水位、維持流量、利水安全度、湧水調整等)						

「 」第30回流域委員会資料4-1からの変更箇所

「 」は調査検討の完了後の説明。

「 」は調査検討の途上での説明。

「-」はさらに小分類がある調査検討項目。